


見えなくても触って知って 国宝の秘仏のレプリカ作製 京都・仁和寺

茶井祐輝 2025年6月25日 12時00分

目の見えない人に仏像に触って仏の世界を知ってもらおうと、世界遺産の京都・仁和(にんな)寺が国宝の秘仏のレプリカを3Dプリンターで作った。盲学校で子どもたちに触れてもらい、7月初旬には大阪・関西万博で展示する。



3Dプリンターで作られた薬師如来坐像(ごぞう)に触る京都府立盲学校の生徒(左)ら=2025年6月16日午後3時15分、京都市北区、有元愛美子撮影 

6月16日、京都市北区の府立盲学校花ノ坊校地に「薬師如来坐像(ごぞう)」の原寸大のレプリカがお目見えした。平安後期の1103年につくられ、台座を含めた高さは約25センチ。素材は白檀(びやくだん)だが、レプリカは樹脂製だ。

仁和寺の僧侶が説明する。「ここは薬つぼ」「このでこぼこは螺髪(らほつ)といって、髪の毛です」




3Dプリンターで作られた薬師如来坐像(ごぞう)に触る京都府立盲学校の生徒=2025年6月16日午後3時38分、京都市北区、有元愛美子撮影 

寺をバリアフリーに 仁和寺で取り組み、重度身障児らが体験 →

目が見えない生徒らが、指でなぞっていく。手にとって目の前まで近づける生徒もいた。南畑歩希(いぶき)さん(16)は「手にとって触れる方が断然わかりやすい。ほかの仏像も触れたらいいのに」。

薬師如来坐像は、仁和寺の僧侶でもめったに見ることのできない秘仏。そのレプリカを作れば批判されるかもしれない。それでも作ったのは、1964年の東京パラリンピックの卓球で金メダルに輝いた岡山市の竹内昌彦さん(80)の願いがきっかけだ。



3Dプリンターで作られた薬師如来坐像(ざぞう)=2025年6月16日午後3時47分、京都市北区、有元愛美子撮影 

今年2月、仁和寺の僧侶たちの研修で講演し、呼びかけた。

「仁和寺の模型をつくって、寺の入り口にでも置いてみたら」


竹内さんは幼少期に失明し、岡山県立岡山盲学校の教頭を務めた。「命の大切さ」をテーマに各地で講演している。

模型といえば、竹内さんは63年を思い出す。できてから5年の東京タワーを修学旅行で訪れ、模型を買った。

「ほう、こうやって立っとなか」「ここが展望台か」と感じた。スカイツリーが建ったときも模型を手にし、東京タワーとの違いを知った。

寺には模型がなかった。仁和寺をはじめ、大寺院をお参りして説明を聞いても、自分がどこにいるのかわからない。




3Dプリンターで作られた薬師如来坐像(ざぞう)に触る京都府立盲学校の生徒=2025年6月16日午後3時32分、京都市北区、有元愛美子撮影 

竹内さんの思いを知った仁和寺の総務課長、竹中亮寛さん(37)は「自分が目が見えなかったら、お寺にお参りしたいと思うだろうか」と悩んだ。

仁和寺は寺務所にしか点字ブロックがない。仏像には触れない。目が見えない人にも仁和寺を知ってほしいと、仏像のレプリカを思い立った。

薬師如来坐像を選んだのは、小さくて原寸大で再現できるからだ。国の事業で高精細撮影して3Dモデルを作ったこともある。制作は今春、京都市西京区のデジタルコンテンツ制作会社「アートリサーチ」に頼んだ。



3Dプリンターで作られた薬師如来坐像(ざぞう)を持つ仁和寺の竹中亮寛総務課長=2025年6月16日午後3時49分、京都市北区、有元愛美子撮影 

万博では7月2～6日、EXPOメッセWASSEにある仁和寺のブースで展示する。実際に触れることができ、レプリカにちなんだ薬師如来の特別御朱印を授ける。

竹中さんは「ゆくゆくは仁和寺の模型もつくり、目の見えない人にも、見える人と同じ体験をしてもらいたい」と話す。